日刊 動労千葉

79.8.7

No.192

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二―八（動力車会館）
（鉄電）二二五八―九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

大規模な要員削減

労働強化と国鉄労働運動破壊が狙い！

国鉄35万人体制とは何か

その2

国鉄労働運動の解体＝組織破壊を狙うもの！

せまりくる、「国鉄三五万人体制」の攻撃は、国鉄史上かってない大巾な要員削減であるとともに、今日の労使慣行を一変させ、専制的労務管理体制確立をもって、国鉄労働者のもつ階級性、職闘性をもぎとり、当局の尖兵となる労働者づくりを狙うものである。つまり、新たなるマル生攻撃をとおして、大規模な要員合理化―労働強化を押し進め、国鉄労働運動そのものを解体し、支配者の意のままになる組織形態に造りかえてゆくことに他ならない。

政府・支配者が危機的重圧を労働者に転嫁し、乗り切り策動に打って出てきたことは明白である。

「国鉄三五万人体制」とは、まさに日本労働運動解体を、支配の側から先制的に攻撃してきたものだ。

55・10を突破口とした、「国鉄再建基本構想」！

「国鉄三五万人体制」＝国鉄再建の具体的骨子は、①経営の重点化、②三五万人体制、③運賃値上げ④ローカル線対策などの基本構想にもとづき、旅客・貨物列車削減、ローカル線廃止・民営化、施設、検修などの民託化、私鉄並みの労働条件（乗務効率のアップ）を主柱にしたもので、徹底した営業合理化、貨物駅集約、ヤード、基地統廃合を推進することがうちだされてきている。

55・10では、一万人の要員削減がすでに提案されてきているが、これこそ「国鉄三五万人体制」への布石・突破口である。

すでに進められている様々な攻撃と、今後強行するであろう攻撃とは決して別の狙いではなく、すべて「国鉄三五万人体制」へ向けての攻撃である。

武蔵野型合理化を着実に押し進め、新幹線博多総合車両基地にみられるように、コンピューター合理化をもって労働者の団結力を弱体化させ、労働運動どころか日常的な会話すらさせない、そうした、労働者の完全なロボット化をも企んでいる。

国鉄大合理化攻撃はすでに始まっている！

このような恐るべき攻撃は、瞬時にして出来るものではなく、今日すでに開始されていることを見なければならない。今日進められてきている構内整備係の外注化、検修業務の民託化などは、国鉄の職場を切り売りする、安全無視、営利優先の攻撃であり、きわめて許し難い暴挙である。

54・10では、仕業検査の見直し（夜間作業を昼間へ移行）などが画策されてきている。

こうした一つ一つの攻撃が、国鉄労働運動の破壊にその真の狙いがある以上、産報化の尖兵＝当局の親衛隊としての動労革マル反動集団による決定的な裏切りと敵対に抗し、われわれは、国鉄三五万人体制攻撃粉砕の闘いを、国鉄労働者のみならず、労働者階級の共闘の場として位置付け、各職場から怒りの反撃に立ち上がろうではないか！

前回（その1）で国鉄三五万人体制の攻撃の本質が、政府・支配者階級の体制的危機を乗り切る最後の救済策であることを明らかにしてきた。本号では、国鉄再建基本構想―国鉄三五万人体制攻撃が、国鉄労働運動解体に焦点をあてた攻撃であることを明らかにしてゆく。

動労中執が辞任

7日からの大会に波紋

東京

千葉動労の分裂をきっかけに組織内紛が表面化した動労（林大風委員長、四万七千人）は七日から熊本市で定期大会を開くが、大会

動労の佐藤中執委員が辞任声明

組織内紛問題をかかえる動労（林大風委員長、四万八千人）で、中央執行委員の一人、佐藤正喜氏＝秋田地本＝が中執委員を辞する声明を出したことが三日、明らかになった。動労は七日から、

り、その扱いが論議を呼びそうだ。

佐藤氏の声明は動労執行部の運営の進め方に問題があるとし「運営の根幹をなす方針、組織運営・指導のあり方は大きく変ぼうし、一部組織外党派の思想を唯一とする排除の論理が公然と組織を支配し、組合員主主義はその形がいすっかり変ぼうしている」と本部主流派の佐藤正喜氏の声明は動労執行部の運営の進め方に問題があるとし「運営の根幹をなす方針、組織運営・指導のあり方は大きく変ぼうし、一部組織外党派の思想を唯一とする排除の論理が公然と組織を支配し、組合員主主義はその形がいすっかり変ぼうしている」と本部主流派の佐藤正喜氏の声明は動労執行部の運営の進め方に問題があるとし「運営の根幹をなす方針、組織運営・指導のあり方は大きく変ぼうし、一部組織外党派の思想を唯一とする排除の論理が公然と組織を支配し、組合員主主義はその形がいす

研究会」（労運研）との対立が、組織から独立した千葉動労問題などをめぐって激化しているという背景があり、大会での討議に波紋を投げかけそうだ。

関係者に配布した“辞任声明”のなかで佐藤中執は「今日の動労は、組織運営・指導の在り方が大きく変容、一部組織外党派（革マル派）の思想を唯一とする排除の論理が公然と組織を支配している」と本部主流派を激しく非難、千葉問題について「中執は総辞職して組合員にその是を問うべき、と林委員長に迫ったが聞き入れられなかった」と辞任理由を述べて

大会前、主流派にまた反旗

動労 サンケイ 中執が抗議の辞任

きっかけに組織内紛（林大風委員長、四万七千人）は七日から熊本市で定期大会を開くが、大会を前に、本部主流派の佐藤正喜氏＝秋田地本＝が中執委員を辞する声明を出したことが三日、明らかになった。動労は七日から、

ていることが三日明らかになった。

佐藤氏の辞任には本部主流派で革マル派の影響が強いといわれる「政策研究会」（政研）と佐藤氏が所属する反主流派の「労働運動研究会」（労運研）との対立が、組織から独立した千葉動労問題などをめぐって激化しているという背景があり、大会での討議に波紋を投げかけそうだ。

関係者に配布した“辞任声明”のなかで佐藤中執は「今日の動労は、組織運営・指導の在り方が大きく変容、一部組織外党派（革マル派）の思想を唯一とする排除の論理が公然と組織を支配している」と本部主流派を激しく非難、千葉問題について「中執は総辞職して組合員にその是を問うべき、と林委員長に迫ったが聞き入れられなかった」と辞任理由を述べている。

動労本部の中執一人、労運研八人の構成になっている書記長の派ストは研色の濃い指導体である。両派の対立はさかんに伝るが、最勢力の政研への注年の大会で組織防物輸送を妨害行為